佳作

カナヘビのたん生

千葉県 我孫子市立湖北台西小学校六年　加瀬 優空

ぼくは、生き物が大好きです。家でも、今までザリガニ、メダカ、カブトムシ、クワガタなど、色々な生き物を飼ってきました。その中で最も飼育が難しかったのは、カナヘビです。カナヘビはトカゲの仲間で、主にコオロギ、クモ、バッタなどのこん虫をほ食します。ぼくは家の庭で見つけたカナヘビを、育ててみることにしました。毎日、生きえを見つけては、カナヘビにあたえ、父と一しょに世話をしていました。ある日、カナヘビがたまごを八個産みました。うれしかったけれど、前回飼ったときは、たまごにカビが生えてしまい、うまく育てることができなかったので今回は、「うまくたまごがかえってくれるかな？」という期待と不安がありました。毎日大切に世話をしました。けれどもたまごはなかなかかえりません。ぼくは、「また産まれてこないかもしれない」と、不安になりました。そんなある日、飼育ケースをのぞいた母が、

「赤ちゃんが生まれているよ！」

と、教えてくれました。ぼくはおどろいて飼育ケースにかけ寄りました。飼育ケースの中をのぞいてみると、とてもかわいくて、とても小さい赤ちゃんが生まれていました。

前回は一度失敗していたので、心配が大きかったけれど、無事にみんな生まれてきてくれてうれしくてなみだが出そうになりました。生まれた赤ちゃんを飼い続けたいと思いました。ですが、調べてみると、赤ちゃんの口の大きさに合うこん虫を自分で見つけることは、難しいということが解りました。ぼくは、とても迷いましたが、八ひきのかわいい赤ちゃんを自然にかえしてあげることにしました。

自然にかえした後、八ひきの赤ちゃんが、無事に元気に生き続けているのかが気になって、なかなかねむれない日が続きました。けれどもきっとどこかで生き続けていると信じることにしました。

一度は、失敗してあきらめかけていたカナヘビの赤ちゃんのたん生は、ぼくにとって、とても感動的な出来事でした。うまくいくか、ドキドキしながら育てていたけれど、願いが通じて、八ひきの赤ちゃんが生まれてきてくれた時には、達成感がありました。生き物の命のたん生は簡単ではないからこそ、この時、生まれた命のたん生は、ぼくに大きな感動をあたえました。失敗をおそれずに、もう一度たまごを育てることにチャレンジして本当によかったと思いました。

うまくいかないけい験があったからこそ、赤ちゃんたん生の喜びは大きかったです。きっと今も、あの時の八ひきのカナヘビの赤ちゃん達は、大きくなって、元気にたくましく育ってくれていると信じています。ぼくもこのカナヘビたちに負けないようにがんばりたいと思いました。